

2022年12月期第1期四半期決算補足説明資料

2022年5月13日

株式会社HANATOUR JAPAN



東証グロース コード 6561

Summary

2022年12月期1Qは前年同期比138.0%増収
経常損失 前期比+70百万円 最終損失 前期比+80百万円 損失圧縮

ホテル事業

各ホテル ADRの回復遅れるも稼働率は回復傾向
Tマークシティホテル金沢 2022年3月 新規オープン

マーケット回復を見据え営業強化

旅行事業

2022.4より全従業員 通常業務再開（九州 事務所設置）

海外有力サイトとのAPI連携推進

パッケージ商品の企画・販売準備

バス事業

北海道、九州 営業再開準備

2022年12月期1Q 実績サマリー

新型コロナウイルス感染症 変異ウイルスの影響による低迷 ホテル稼働率増加傾向

単位：百万円（百万円未満切捨て）

	2021/12		2022/12 前期比			
	1Q	構成比	1Q	差額	増減率	構成比
売上高	90	100.0	215	125	138.0	100
営業利益	△ 611	△ 673.8	△ 527	83	-	△ 244.2
経常利益	△ 590	△ 651.5	△ 519	70	-	△ 240.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 598	△ 660.0	△ 518	79	-	△ 240.3
1株当たり当期純利益(円)	△ 54.97		△ 41.32			

2022年12月期1Q 損益計算書

人件費 固定経費の抑制継続 各ホテル稼働率回復に伴い変動経費増加

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2021/12		2022/12 前期比			
	1Q	構成比	1Q	増減	伸率	構成比
売上高	90	100.0	215	125	138	100.0
売上原価	63	69.7	59	△ 3	△ 5.6	27.6
売上総利益	27	30.3	156	128	468.1	72.4
販管費	638	704.1	683	44	7.0	316.6
うち人件費	153	169.0	148	△ 5	△ 3.4	68.6
営業利益	△ 611	△ 673.8	△ 527	83	-	△ 244.2
経常利益	△ 590	△ 651.5	△ 519	70	-	△ 240.8
親会社株主に帰属 当期純利益	△ 598	△ 660.0	△ 518	79	-	△ 240.3

売上原価

- ・バス事業：△6百万円
- ・ホテル事業：+3百万円

販管費

- ・旅行事業：△28百万円
- ・バス事業：± 0百万円
- ・ホテル事業：+88百万円
 - ▷稼働率増加による
変動経費増+38百万円
 - ▷金沢ホテル（開業費含む）
+45百万円
- ・調整 他：△16百万円

営業外損益

- ・雇調金等 助成金
 - ▷前期：43百万円
 - ▷当期：28百万円

特別損益

- ・前期
 - ▷新株予権戻入 5百万円
 - ▷店舗解約損 2百万円
- ・当期
 - ▷固定資産縮損 2百万円

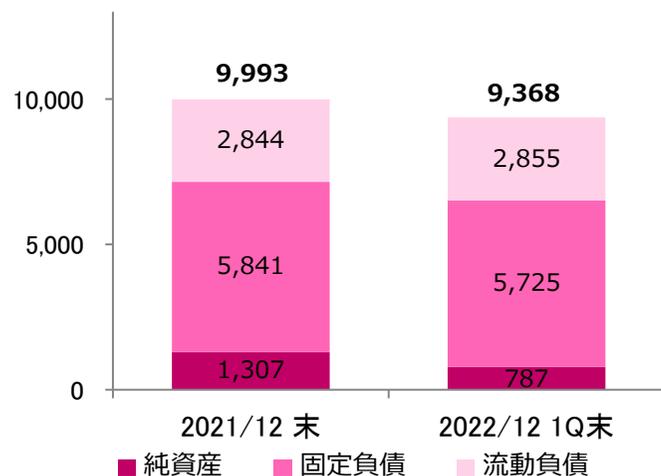
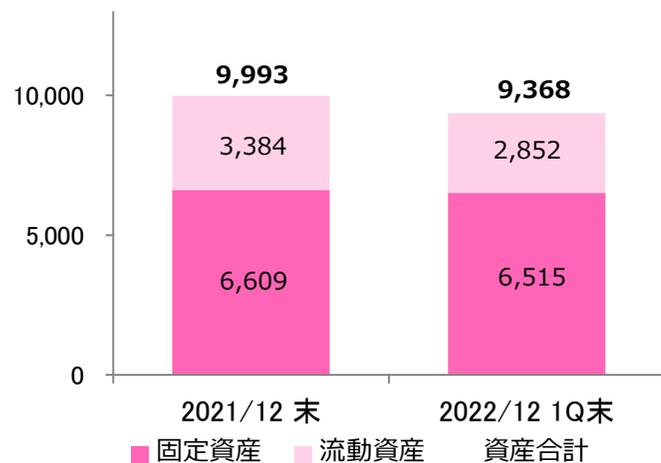
2022年12月期1Q セグメント別

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2021/12 1Q	2022/12 1Q	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅 行 事 業	売 上 高	9	11	2	22.5	5.1
	セグメント利益 利益率	△ 66 -	△ 40 -	26 -	- -	7.7 -
バ ス 事 業	売 上 高	3	10	7	230.3	5.1
	セグメント利益 利益率	△ 76 -	△ 62 -	13 -	- -	11.9 -
ホテル等施設運営事業	売 上 高	81	202	121	149.0	94.0
	セグメント利益 利益率	△ 394 -	△ 364 -	29 -	- -	69.2 -
そ の 他	売 上 高	4	7	2	69.3	3.3
	セグメント利益 利益率	△ 1 -	0 0.0	2 -	- -	0.0 -
小 計	売 上 高	98	232	134	136.7	107.9
	セグメント利益 利益率	△ 539 -	△ 467 -	72 -	- -	88.6 -
調 整 等	売 上 高	△ 7	△ 16	△ 8	-	△ 7.5
	セグメント利益 利益率	△ 72 -	△ 59 -	11 -	- -	11.3 -
合 計	売 上 高	90	215	125	138.0	100.0
	営 業 利 益 利益率	△ 611 -	△ 527 -	83 -	- -	100.0 -

2022年12月期1Q 貸借対照表

単位：百万円（百万円未満切捨て）



流動資産		2,852 (△531)
■ 現金及び預金	2,350 (△585)	売上低迷のため減少
■ 売掛金及び 契約資産	81 (△61)	
■ 前渡金	164 (△1)	

固定資産		6,515 (△93)
■ 有・無形固資	5,270 (△91)	償却による減少、設備投資+19
■ 敷金保証金	1,222 (+2)	

流動負債		2,855 (+10)
■ 短期借入金	1,556 (△10)	返済による減少
■ 一年内返済長借	196 (△3)	
■ 未払費用	746 (+62)	ホテル稼働増加による経費増

固定負債		5,725 (△116)
■ 長期借入金	970 (△53)	返済による減少
■ リース債務	4,696 (△54)	

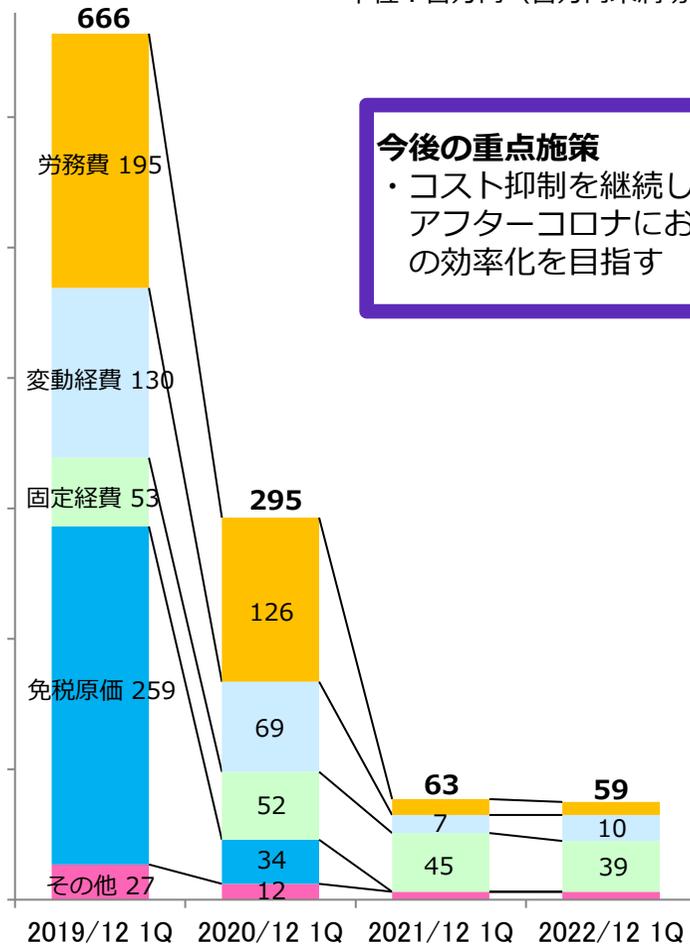
純資産		787 (△519)
■ 資本金	1,771	
■ 資本剰余金	1,716	
■ 利益剰余金	△2,526 (△518)	当期利益 △518

2022年12月期1Q コスト推移

人件費 経費の抑制を徹底 ホテル事業 稼働率増加傾向 ⇒ 変動経費増加

売上原価 4期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）

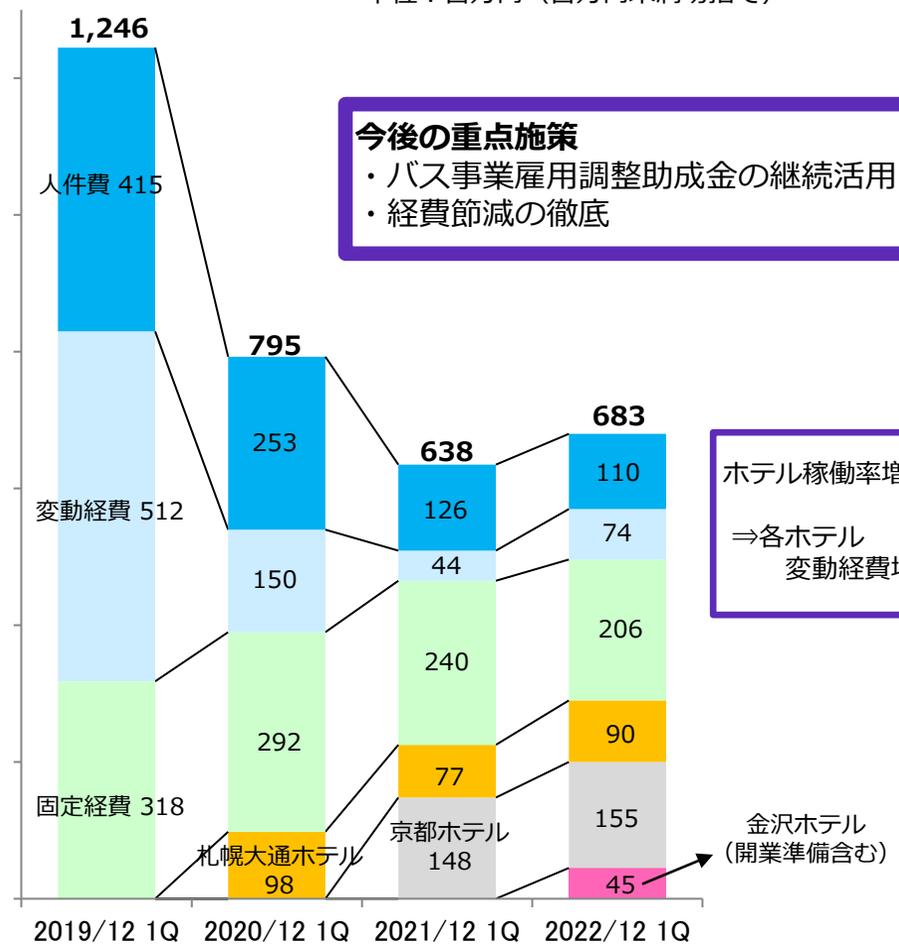


今後の重点施策

- ・コスト抑制を継続し
- ・アフターコロナにおける事業の効率化を目指す

販管費 4期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）



今後の重点施策

- ・バス事業雇用調整助成金の継続活用
- ・経費節減の徹底

ホテル稼働率増加
⇒各ホテル
変動経費増

金沢ホテル
(開業準備含む)

2022年12月期 業績予想について

新型コロナウイルス感染症による観光産業への影響は、一部の国や地域でワクチン接種による改善の動きが見られたものの、わが国では変異ウイルスの感染拡大により、収束時期は依然として不透明であり、業績予想の算定が困難な状況です。

従いまして2022年12月期の連結業績予想は未定とさせていただきます、影響額の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。

2022年12月期 今後の重点施策

営業基盤の強化

経営効率化

営業力強化

旅行事業

- ▶ 営業拠点の選択と集中
東京本社・韓国営業所・インドネシア

- ▶ インバウンド市場回復を見据えた取組み
 - パッケージ商品の企画・販売準備
 - 海外有力サイトとのAPI連携推進
 - 政府インバウンド実証事業参画準備
- ▶ GoTo再開・国内需要を見据えた取組み
 - 外資系企業・在留外国人向け営業強化

バス事業

- ▶ 営業拠点の選択と集中
 - 東京・大阪の2拠点稼働の継続
- ▶ 雇用調整助成金の活用

- ▶ 北海道・九州 営業再開準備
- ▶ 国際便クルー送迎事業の拡大
- ▶ 国内AGTへの営業強化
- ▶ 2022.2 人材派遣事業（旅行ガイド）許可取得

ホテル等
施設
運営事業

- ▶ 新規開業 「Tマークシティホテル金沢」
従業員新規採用数を抑制し他ホテルから応援

- ▶ GoTo再開見据え企画商品開発
- ▶ 東京大森 航空会社乗務員の宿泊誘致強化
- ▶ 新ブランド「ホテルセンレン京都東山清水」
 - 国内外OTAへ広告宣伝強化
- ▶ 2022.3開業「Tマークシティホテル金沢」

財務体質の強化

金融機関、親会社へ継続した支援要請

- ▶ 借入契約、融資枠設定契約の継続

状況に合わせて資金調達の検討

ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経理財務部

TEL 03-6629-4755

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>